

ドイツB20 ECREグループの連合主席として
ジンコソーラーがB20 政策ファイルの制定を推進

2017年5月12日

世界をリードする太陽光モジュールメーカーのジンコソーラーは、唯一発言できる中国企業として、5月2～3日にドイツのベルリンで開催されたG20ビジネスサミット（B20）に出席し講演を行ったと発表した。

ジンコソーラーはB20「エネルギー、気候、資源効率」グループの連合主席としての半年の推進活動を経て、BASF、Linde、Continental、Enel S.p.A.、Rio Tinto、Novozymes A/S、Gamesa等、世界のトップ企業からなる同グループと共に、B20 政策ファイルを作成した。サミットでは、他の代表と一緒にB20提言がドイツ首相アンゲラ・メルケル氏に手渡された。

今回のサミットは20ヶ国・地域から700名以上の世界トップ企業と協会の代表が出席し、将来にわたる世界経済の持続可能な発展について議論した。ジンコソーラーはB20 ECREグループの連合主席として、IEA、BASF、Enel、Continentalと共に「未来の持続可能な発展：エネルギー、気候と資源効率」をテーマに討議が行われた。そして、ドイツB20 ECREグループはこのテーマに対し、3つの重要な政策行動方針（異常気象を減少させる；世界のエネルギー構造を転換させる；投資とエネルギー効率を向上させる）を提出し、20ヶ国・地域（G20）に提供した。これによって、関連政策の革新とグローバルの持続的な発展を推進させることが期待されている。

「今回、昨年杭州G20ビジネスサミット（B20）に続けて2回目の参加となりました。弊社はこれに対して非常に光栄に思っております。ジンコソーラーは世界最大のモジュールメーカーとして、これからも引き続き太陽光発電コストの削減に取り組んでいきます。それによって、持続可能な発展を推進し、『パリ協定』の実施に助力します。」とジンコソーラー副会長銭晶氏は語った。